

令和2年度  
教育課程研究集会  
中学校 社会

奈良県教育委員会事務局 学校教育課  
指導主事 野瀬 彰

# 本日の内容

## 新学習指導要領（社会科）における

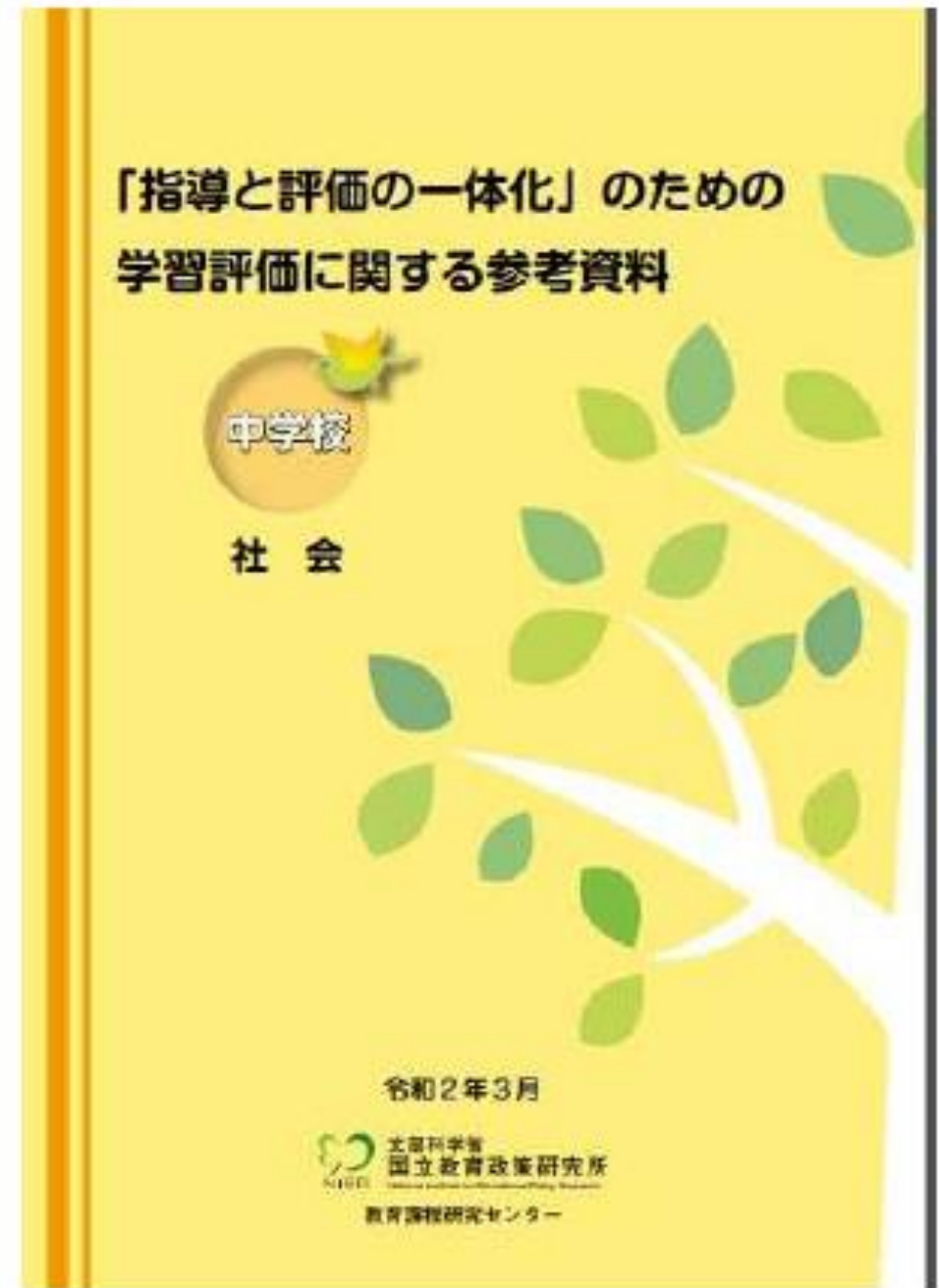
- 1 学習評価の基本的な考え方
- 2 学習評価の進め方
- 3 学習評価の工夫

# 本日の参考資料

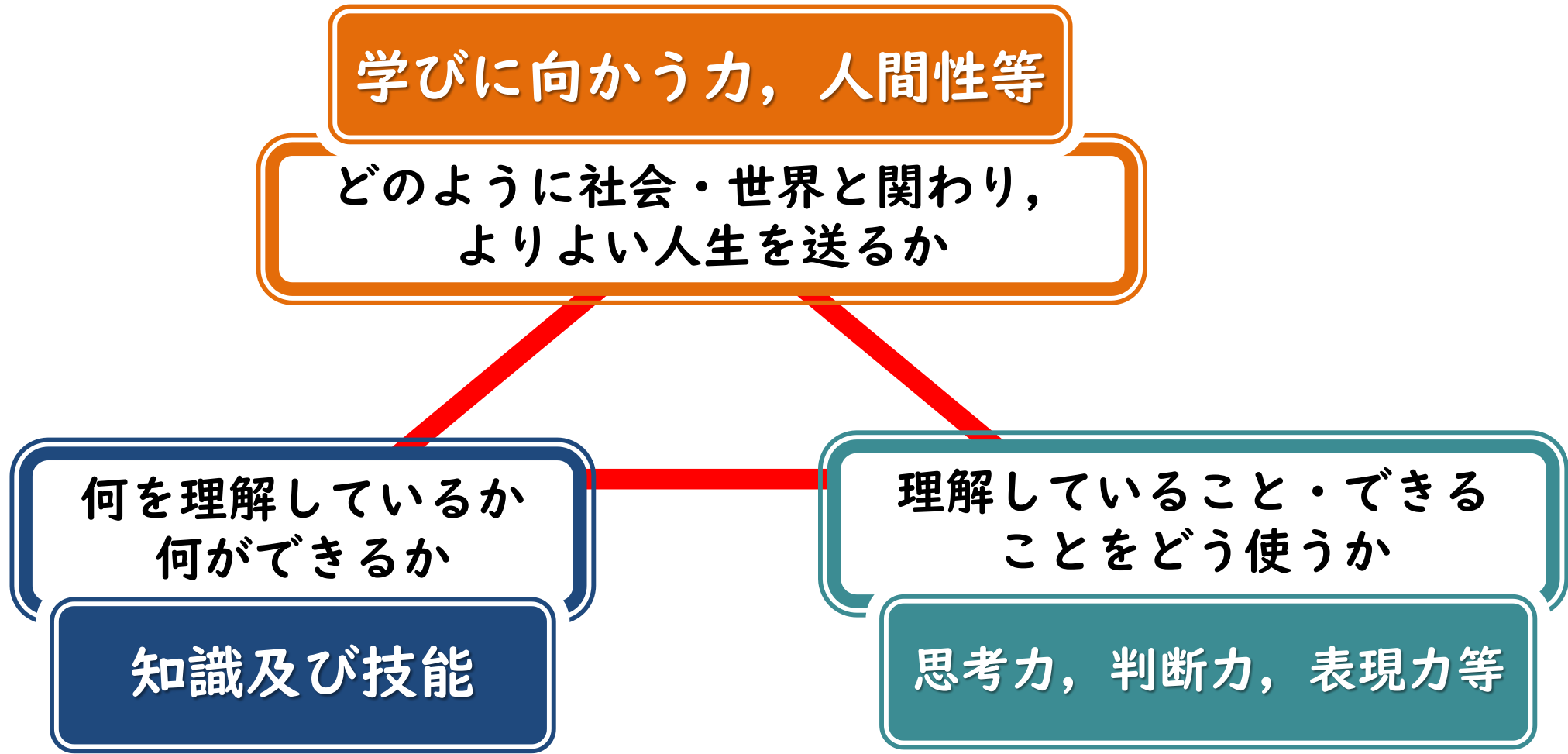
## 「指導と評価の一体化」 のための学習評価に関 する参考資料

[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326\\_mid\\_shakai.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_mid_shakai.pdf)

国立教育政策研究所



# 育成すべき資質・能力の三つの柱



# 社会科の改訂の基本的な考え方

中学校学習指導要領 解説 社会編 P8~10

- (ア) 基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得
- (イ) 「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成
- (ウ) 主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成

# 学習指導要領の内容構成の改善

## 【平成20年告示の学習指導要領 内容】

### (1) 世界の様々な地域

#### イ 世界各地の人々の生活と環境

世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会的条件と関連付けて**考察させ**、世界の人々の生活や環境の多様性を**理解させる**。

## 【平成29年告示の学習指導要領 内容】

### B 世界の様々な地域

#### (1) 世界各地の人々の生活と環境

場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

#### ア 次のような**知識を身に付ける**こと。

(ア) 人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを**理解**すること。

#### イ 次のような**思考力、判断力、表現力等を身に付ける**こと。

(ア) 世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に**考察し、表現**すること。

# 評価の観点の整理

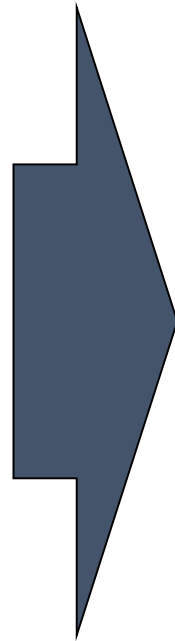
## <平成20年改訂>

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解



## <平成29年改訂>

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に  
取り組む態度

三つの柱に沿った資質・能力を育成するために

学習指導要領 解説 社会編 P12

○三つの柱に沿った資質・能力を育成するためには、課題を追究したり解決したりする活動の充実が求められる。社会科においては従前、小学校で問題解決的な学習の充実、中学校で適切な課題を設けて行う学習の充実が求められており、それらの趣旨を踏襲する。



三つの柱に沿った資質・能力を育成するために

学習指導要領 解説 社会編 P12

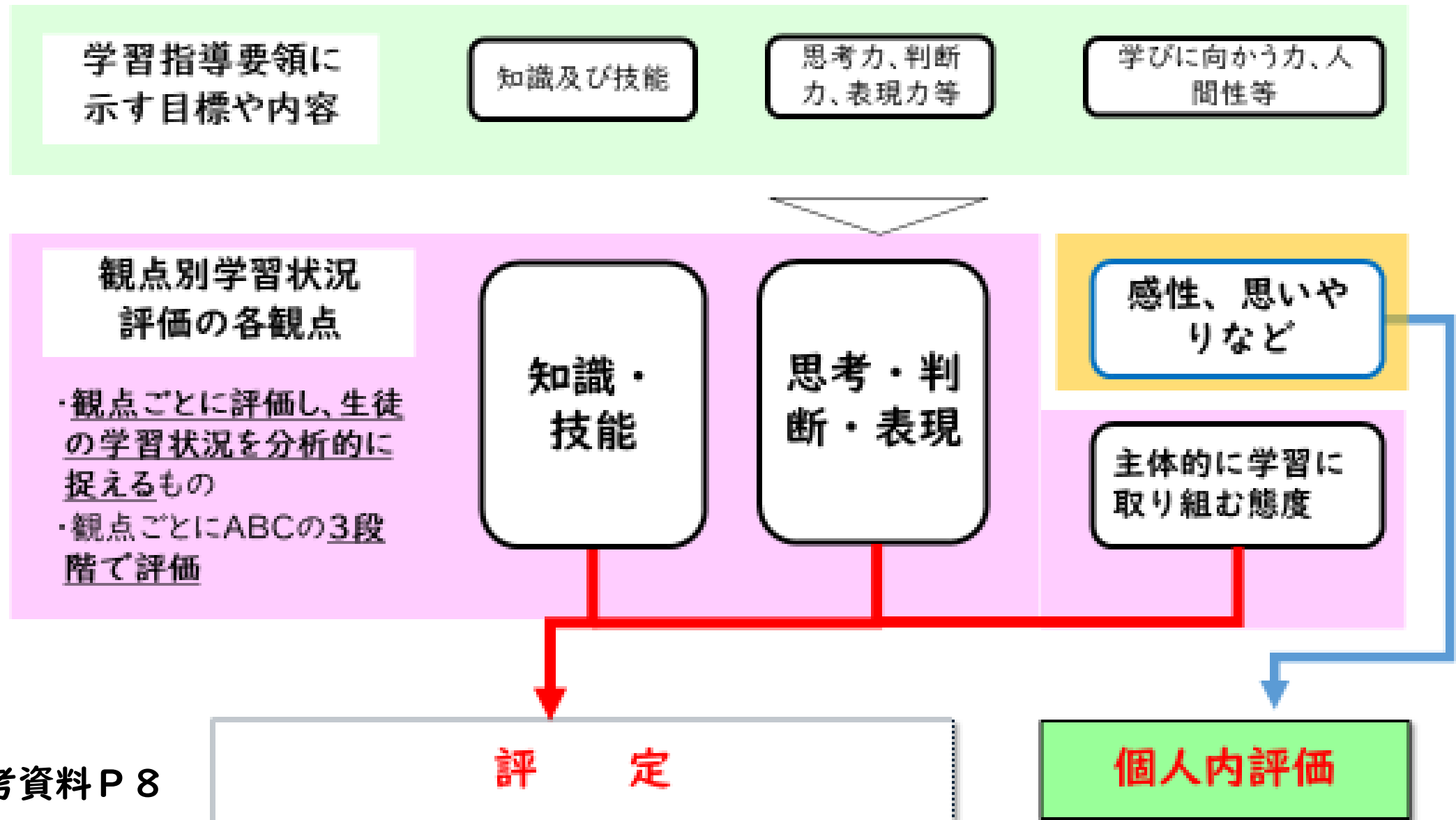
○そうした学習活動を充実させるための学習過程の例としては、大きくは課題把握、課題追究、課題解決の三つが考えられる。また、それらを構成する活動の例としては、動機付けや方向付け、情報収集や考察・構想、まとめや振り返りなどの活動が考えられる。

# 課題を追究したり解決したりする活動例

学習過程		具体例
課題把握	動機付け	学習課題を設定する
	方向付け	問題解決の見通しを持つ
課題追究	情報収集	予想や仮説の検証に向けて調べる
	考察・構想	社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する
		社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する
課題解決	まとめ	考察したことや構想したことをまとめる
新たな課題	振り返り	学習を振り返って考察する

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)  
(中教審第197号) 別添資料より作成

# 各教科における評価の基本構造



# 学習評価の進め方の例

1 単元の目標を作成する

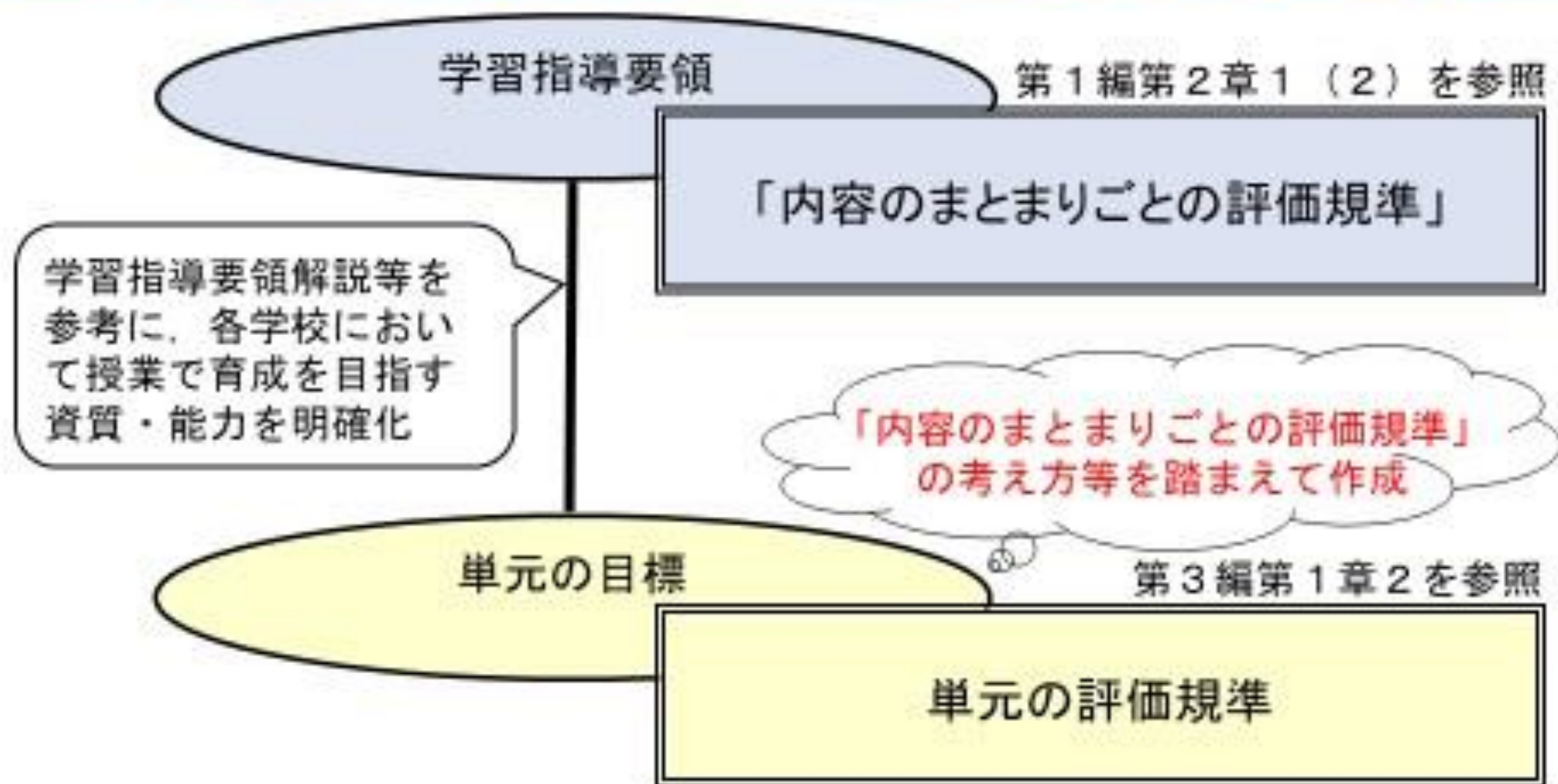
2 単元の評価規準を作成する

3 「指導と評価の計画」を作成する

授業を行う

4 観点ごとに総括する

# 単元の目標及び評価規準の関係性について(イメージ図)



- ・中学校社会科では学習指導要領の「2 内容」の中項目をもって「内容のまとめ」とする。

#### 〔地理的分野〕

- |              |                   |
|--------------|-------------------|
| A 世界と日本の地域構成 | (1) 地域構成          |
| B 世界の様々な地域   | (1) 世界各地の人々の生活と環境 |
| B 世界の様々な地域   | (2) 世界の諸地域        |
| C 日本の様々な地域   | (1) 地域調査の手法       |
| C 日本の様々な地域   | (2) 日本の地域的特色と地域区分 |
| C 日本の様々な地域   | (3) 日本の諸地域        |
| C 日本の様々な地域   | (4) 地域の在り方        |

#### 〔歴史的分野〕

- |               |              |
|---------------|--------------|
| A 歴史との対話      | (1) 私たちと歴史   |
| A 歴史との対話      | (2) 身近な地域の歴史 |
| B 近世までの日本とアジア | (1) 古代までの日本  |
| B 近世までの日本とアジア | (2) 中世の日本    |
| B 近世までの日本とアジア | (3) 近世の日本    |
| C 近現代の日本と世界   | (1) 近代の日本と世界 |
| C 近現代の日本と世界   | (2) 現代の日本と世界 |

#### 〔公民的分野〕

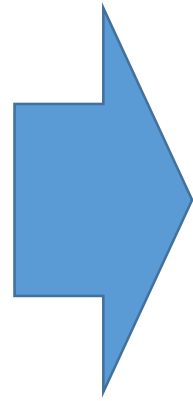
- |                |                       |
|----------------|-----------------------|
| A 私たちと現代社会     | (1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色 |
| A 私たちと現代社会     | (2) 現代社会を捉える枠組み       |
| B 私たちと経済       | (1) 市場の働きと経済          |
| B 私たちと経済       | (2) 国民の生活と政府の役割       |
| C 私たちと政治       | (1) 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則 |
| C 私たちと政治       | (2) 民主政治と政治参加         |
| D 私たちと国際社会の諸課題 | (1) 世界平和と人類の福祉の増大     |
| D 私たちと国際社会の諸課題 | (2) よりよい社会を目指して       |

# 「内容のまとめりごとの評価規準」作成例

例 地理的分野 B (1) 「世界各地の人々の生活と環境」

学習指導要領 2 内容  
知識及び技能

(ア) 人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会条件に影響を与えたりすることを**理解すること**。



評価規準 例  
知識・技能

・人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会条件に影響を与えたりすることを**理解している**。

# 学習評価の進め方の例

1 単元の目標を作成する

2 単元の評価規準を作成する

3 「指導と評価の計画」を作成する

授業を行う

4 観点ごとに総括する



# 単元における各観点の評価規準の作成に当たっての留意点

「知識・技能」について

(知識)

・社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる**概念等に関わる知識**を獲得するように学習を設計することが求められる。

(技能)

・「中学校学習指導要領解説社会編」の中で、身に付けるべき技能の例を整理した。

→これらのことを踏まえれば、単元の目標及び、その評価規準においても、細かな事象を羅列してその習得のみを求めることのないよう留意することが必要である。

# 単元における各観点の評価規準の作成に当たっての留意点

「思考・判断・表現」について

・「社会的な見方・考え方」は、資質・能力の育成全体に関わり、「思考力・判断力・表現力等」の育成に当たって重要な役割を果たすものであると捉えられる。

→学習指導要領及びその解説に示された、分野の特質に応じた視点の例や、視点を生かした**考察**や**構想**に向かう「問い」の例などを踏まえ、各単元において、それぞれの「**見方・考え方**」を視野に、具体的な「視点」等を組み込んだ評価規準を設定することが重要。

# 単元における各観点の評価規準の作成に当たっての留意点

「主体的に学習に取り組む態度」について

・従前の学習指導要領から一貫して重視されてきた課題の発見、解決のための「思考力、判断力、表現力等」の育成とも相まって、現実の社会的事象を扱うことのできる社会科ならではの「主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」が必要である。

※教科の特性を踏まえつつ、この観点については、単元を越えて評価規準を設定するなど、ある程度長い区切りの中で評価することも考えられる。

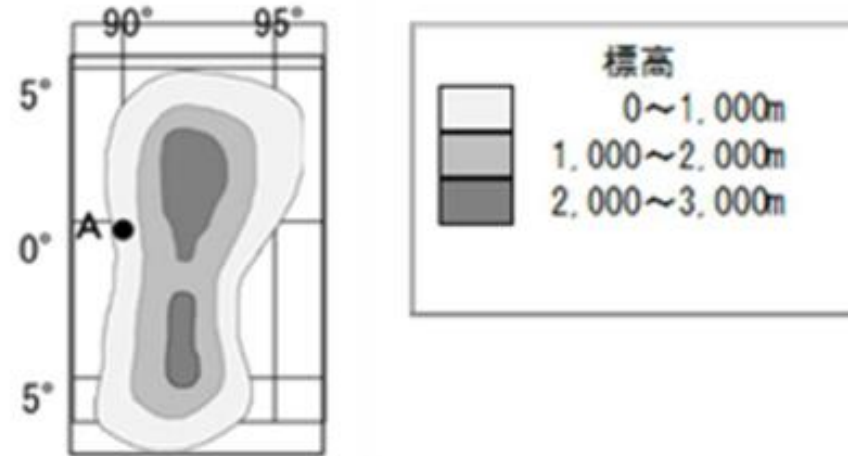
# 事例Ⅰ 評価方法の工夫

～思考力等を問うペーパーテストの工夫改善～

## 問題例 iii

右の地図は、地球上の**仮想の陸地**を示したものである。地図から考えられる地点Aの気候の特徴を、そう考えた理由とともに説明しなさい。また、地点Aの気候の特徴に対応した伝統的な衣服として考えられる最も適切なものを、下のア～エのうちから一つ選び、その記号を書きなさい。

地図



ア



イ



ウ



エ



## 事例2 評価場面の精選

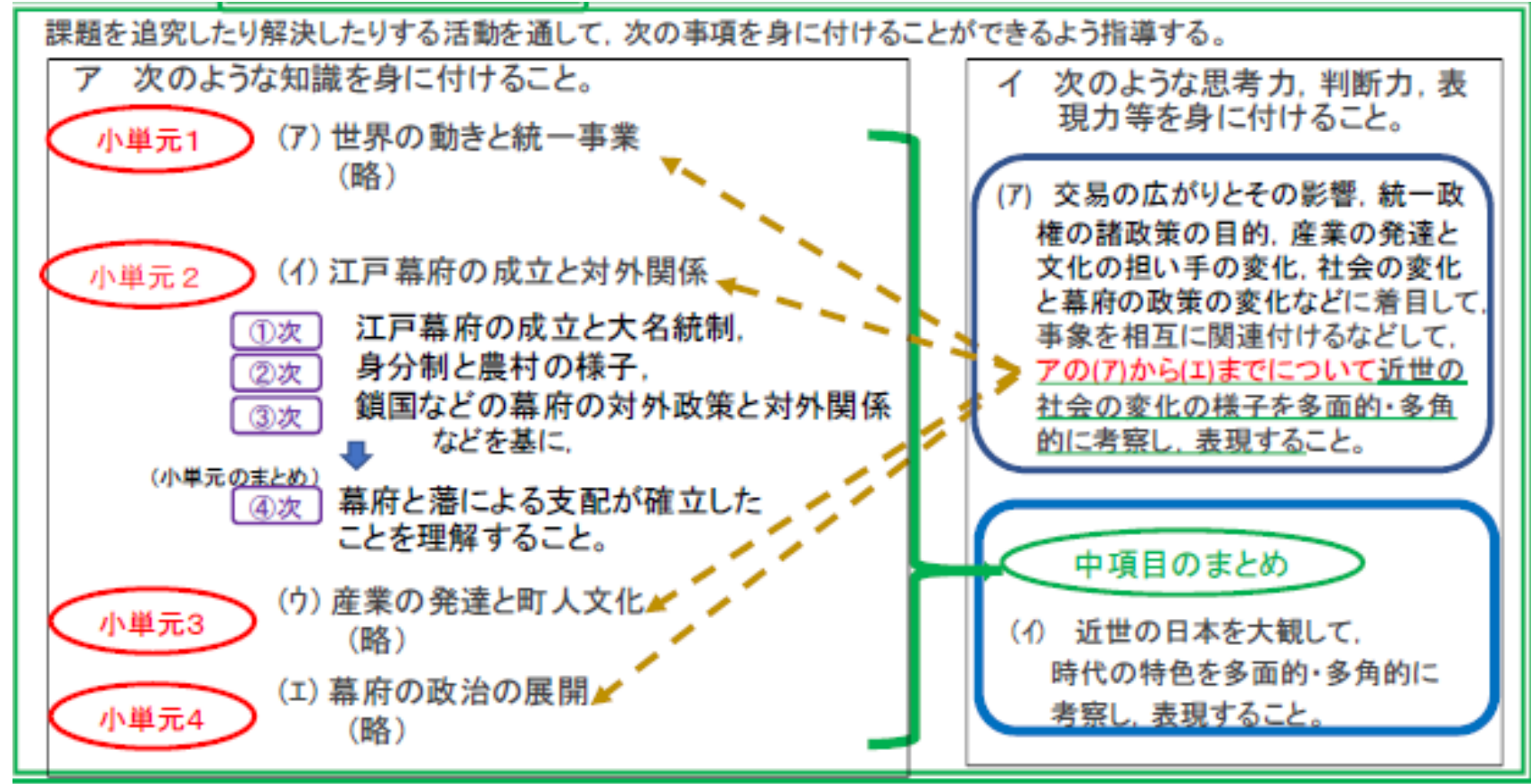
□参考資料P60・61の「日本の諸地域」の指導と評価の計画例

- ①重点化・・・各小單元において評価の観点を絞り込んで、評価計画に位置付ける
- ②系統化・・・單元を通じて、一つの観点について複数の評価場面や評価方法・手段がある場合は、各小單元の評価計画において、対象となる観点の評価規準の系統化を図る

# 事例3 大きな単元構成

□歴史的分野  
B(3)近世の日本

一つの大きな単元としての学習のまとまりをもった構造



・「小単元」などにおいて、適宜、生徒の学習状況を評価する場面を設ける。

## 事例4 複数の項目を統合した単元の評価

### □歴史的分野

A(2)「身近な地域の歴史」を、取り上げる地域の歴史的な特徴を踏まえ、C(1)「近代の日本と世界」ア(イ)「明治維新と近代国家の形成」と関わらせて作成した小単元

→2つのそれぞれの事項のねらいを踏まえた単元の評価計画が必要

# 事例5 指導と評価の計画から評価の総括まで

□ 評定に用いる評価 ……○で表している  
 学習改善につなげる評価 ……●で表している

観点\次	導入 (1時間)	第一次 (4時間)	第二次 (6時間)	第三次 (4時間)	第四次 (6時間)	まとめ (1時間)
知・技		● ○25%	● ○25%	● ○25%	● ○25%	
思・判・表		●	●	●	●	○100%
主体的態度	●		●			○100%



# 事例6 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

<単元で用いるワークシート例>

□ 公民的分野

D 私たちと国際社会

(1) 世界平和と人類  
の福祉の増大

## 学びのあしあと

### 1 はじめに ～見通しをもって単元の学習に臨もう～

単元を貫く問い

「世界平和と人類の福祉の増大のために、日本はどのような役割を果たしていくべきだろうか。」

現時点での考え

(これまでの学習から、「世界平和と人類の福祉の増大」のために取り組むべき事にはどのようなことがあるだろうか。どうしたらよりよくなるだろうか。)

必要な情報とその情報の入手方法

### 2 単元の学習の途中で

(単元を貫く問いについて考えたことや友人や先生の話したことで心に残ったものをメモしておこう。)

# 事例6 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

単元末において

## 3 単元の学習を終えて

この単元の自分自身の学習への取組 (線の上に○を書こう。)

よい                      3    2    1    よくない

---

今後の学習や生活に生かしたいこと

これからも考え続けていきたいこと(それは、社会にとってどのような意義があるの?)

# 事例6 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

<p>今後の学習や生活について生かしたいこと</p>	<p>単元の学習を振り返って、問いに対する取組や学習したことから今後の学習や生活に生かそうとすることを見いだしている</p>	
<p>これからも考え続けていきたいこと (それは、社会にとってどのような意義があるか?)</p>	<p>学習した内容やそれに関連することの中から「これからも問い続けていきたいこと(追究していきたいこと)」を挙げるとともに、その社会的意義を簡単に記述している。</p>	<p>「概ね満足できる」状況(B)</p>

最後に

「指導と評価の一体化」  
のための学習評価に関  
する参考資料

国立教育政策研究所

